



古新 舜 × 川本 高広

古新 舜(こにいしゅん) 岩手県釜石市出身。私立巣鴨高等学校卒業、早稲田大学理工学部応用物理学科卒業、早稲田大学大学院国際情報通信研究科卒業。デジタルハリウッド大学院卒業。幼いころからいじめの経験があり、ひきこもりの経験も。初監督短編映画『サクラ、アンブレラ』が米国アカデミー賞公認短編映画祭ショートショートフィルムフェスティバルにて入選し、その後続々と作品を発表。「生きること」へメッセージ性の高い映画を撮り続けている。

コスモボックス株式会社
〒166-0002
東京都杉並区高円寺北3-1-9 青田ビル201
TEL/FAX 03-6321-7368
http://cosmobox.jp

女優・倉科カナさん初主演短編映画「koganeyuki」をはじめ、国内外の映画祭でグランプリなどを受賞している映画監督の古新舜さん(37)が手がけた「あまのがわ」が、今年下期から公開される。これに先立ち川本高広が、学生時代「人とは違う」ことを理由にいじめを受けたり、ひきこもりになってしまった経験があるという古新監督と対談し、人と違うこと、多様性を認め合う社会へ向けて「誰が変わるべきか」を語り合った。

多様性認め合う社会へ

映画を通じて発信

川本 哀川翔さんの次女・福地桃子さんが初出演される古新監督の映画「あまのがわ」が、今年下期の公開になる。このことで、「心を無くした彼女は、身体を無くした彼と、旅に出る」

のストーリータイトルを見て、今から楽しみにしています。今回の映画に込められた思いをお聞かせください。

古新 前作、わたしは日本で年間17万頭(公開当時)もの犬や猫の殺処分をテーマにした映画「ノー・ウィズ・オース」を作りました。虐待を受けた動物が、しつかりした新しい飼い主の元で元気になっていく姿を描きたかった。わたし

たちは元氣だった、普通に身体が動くことや心身が健康であることが「当たり前」になっていきますが、実はそうじゃない方々がたくさんいらっしゃる。今回の映画「あまのがわ」は、嫉が厳しい母と不仲になり、心の安定を無くして不登校になってしまった女子高生が主人公です。失敗を恐れず、一歩踏み出す勇気」のメッセージをこの映画に込めました。

川本 わたしの施設では、障害を持つ子どもを預かっています。そんな中、保護者が何かの壁にぶつかってしまい、悩みを持たれることがあります。「人と違うこと」「障害を持つ子どもも本人が悩んでいるわけではなくとも、保護者の方がふさぎ込んでしまったり、深くケースがあります。こういうときのアドバイスをお願いしたいです。

古新 そうですね、今までは「誰かと同じ

シネマストーリー

<http://amanogawa-movie.com>



心を無くした彼女は、身体を無くした彼と、旅に出る

主人公の史織は東京に住む高校生。周りの子から目立たないように、いつも周囲の顔色を伺っている。

母・聡美は人工知能の研究者。研究熱心な聡美は、家にいる時間はほとんどない。が、史織に対し

での教育熱は人一倍である。史織はおばあちゃん子で、祖母・菊江から習った祭の太鼓の演奏に興味、関心があった。しかし、聡美のしつけで太鼓を叩く機会を奪われてしまい、かつ不登校になってしまう。

自分のやりたいことを見失ってしまった史織は、ある日、菊江の入院で鹿児島に行くことになる。菊江からの頼みで、史織は一人屋久島に旅立つ。その道中で、実は人が遠隔操作をしている分身ロボットと出会う。

「がいい」と、そんな横並びの思想が社会のスタンダードだったように思います。わたし自身も幼少期を振り返ると「少々変わった」と思います。その影響でいじめを受けたことも、家にひきこもりになった経験もあります。

今、時代は多様性を重んじるように変化しつつあります。これは笑い話ですが、人と違う考え方をしていた昔の自分は「少し時代の先を行っていたんだ、時代がようやく追いついてきたんだ」と、今は思えるようになりました。

いろいろな価値観、いろいろな答えがある。そんな時代をみんなで作っていききたい。わたしは映画を通じてそれを伝えていけたらと思います。

障がいをもつお子さまから成人の方を対象に、集団生活・社会生活に適應できるよう適切な指導と自立に向けた支援をおこないます。将来的には、就労支援・生活介護・ショートステイ・グループホームと展開し、地域での生活を目指し、トータル的な相談窓口として皆さまをサポートしてきます。

適切な指導と自立に向けた支援が充実

